

日本認知科学会第30回大会のご案内（第2号通信 ver.2）

日本認知科学会第30回大会に136件と多数の発表申込をいただきました。誠にありがとうございます。採択された発表（口頭発表、ポスター発表、ワークショップ）の論文集掲載用原稿は7月1日（月）が提出期限となっています。期限を厳守くださるようお願いいたします。提出方法は「3. 大会発表論文集原稿」をご覧ください。

本大会では口頭発表、ポスター発表、ワークショップのほか、フェロー授与式、特別講演2件と多彩なプログラムを編成しています。特別講演のうち一件は一般公開です。どうか多数のご参会をお願いいたします。

日程：2013年9月12日（木）～14日（土）

場所：玉川大学 視聴覚センター

（東京都町田市玉川学園6-1-1）

<http://www.jcss.gr.jp/meetings/JCSS2013/>

大会委員長 大森隆司（玉川大学）
実行委員長 岡田浩之（玉川大学）
プログラム委員長 開 一夫（東京大学）
プログラム副委員長 嶋田総太郎（明治大学）

1. プログラム

現段階で決まっているプログラムをお知らせします。

1.1. 特別講演1（9月12日）

「経済ゲーム実験における行動の一貫性：
選好、信念、適応領域」

講演者：山岸俊男（東京大学）

概要：経済学で伝統的に受け入れられてきた、自己利益を合理的に追求する存在としてのホモエコノミカスの前提が経済実験ゲームにおける参加者の行動と一貫しないことは、多くの実験結果が示している。こうした実験研究の結果を説明するために、経済学者たち（少なくともその一部）は、自己利益を目的として行動するという側面に関しては、人間は自己利益以外の社会的選好を持っているというかたちでホモエコノミカスの修正を受け入れている。本研究は、こうした修正の妥当性を検討するために3年半の歳月をかけて実施した「ゲームと文化プロジェクト」の結果を紹介し、①人々が持つ社会的選好は適応領域特定的に活性化されること、②特に社会的交換領域においては社会的選好と同時に、人間性と社

会のあり方についての文化特定の信念がゲーム行動の決定に重要な役割を果たしていることを明らかにする。本プロジェクトでは、キャリーオーバー効果の発生を極力少なくするためにゲーム実験間に数カ月の期間をはさむかたちで、囚人のジレンマゲーム、信頼ゲーム、独裁者ゲーム、最後通告ゲーム、鹿狩りゲームなど12の役割を伴う10のゲームを実施した。結果は、囚人のジレンマゲーム、信頼ゲーム（信頼者及び被信頼者）、信仰ゲーム（信頼者）の間では同一参加者が一貫した行動を取るのに対して、最後通告ゲームにおける不公平提案の拒否とこれらのゲーム行動の間には一貫性が見られないことを示している。

1.2. 特別講演 その2（一般公開）（9月13日）

「落語におけるコミュニケーションの技法（仮題）」

講演者：二代目 林家木久蔵（落語家）

概要：落語は、噺家がたった一人で登場人物の心の動きや情景を伝える極めて特殊な演芸である。我々は、噺家一人の「ことば」と「表情身振り」で、笑い、涙する。そこには、人に聞き入らせ、判らせ、心を動かす噺の技がある。認知科学の観点からはそれはどういう現象なのか、興味は尽きない。本講演では、前半にはそのような噺家の技術について噺家本人から伺い、後半はその話芸を楽しませていただきつつ、その技を体験したい。

1.3. 日本認知科学会フェロー授与式（9月14日の予定）

授与者：中島秀之氏（はこだて未来大学）

概要：日本認知科学会では2011年に、日本の認知科学の発展に多大なる功績のあった者を顕彰するため、「日本認知科学会フェロー」制度を制定しました。フェロー称号の授与により、これまでの貢献に対して尊敬と感謝の意を示すことを目的としています。2013年度大会では、2013年度に本称号を授与される1名のフェローに対する授与式を行います。授与式後に、過去にフェローを授与された先生方にもご参加頂き、認知科学分野の在り方を議論する企画を検討中です。

1.4. ワークショップ (9月 12日, 14日の夕刻を予定)

以下の7件のワークショップが採択されました。詳細はホームページをご覧ください。

- ・青山征彦・岡部大介 「Make: コミュニティにおける実践: なぜ作る/集うのか」
- ・浅川伸一 「概念研究のクロストーク」
- ・後安美紀 「動的な意識の流れにおいて主体性を発現させる描画ロボット」
- ・小橋康章 「30年後の日本認知科学会に向けて」
- ・田中章浩・嶋田総太郎 「コミュニケーションを支える知覚・認知基盤」
- ・田中吉史・永井由佳里 「拡大するデザイン研究-認知デザイン論へ向かって」
- ・開一夫・板倉昭二・今井倫太 「ヒトと人工物のインタラクション: 発展のための課題」

2. 締め切りなど重要な日程

a) 重要な日程 【厳守】

発表論文集掲載用原稿 提出期限: 2013年7月1日 (月)

b) 参加申し込み・参加費用

オンラインにて事前に参加申し込みいただけます。

大会参加申し込み費用は以下の通りです。早めにお支払いいただくと幸いです。

<http://www.jcss.gr.jp/meetings/JCSS2013/participation.html>

大会参加費(円)	会 員		非会員	
	一般	学生	一般	学生
早期登録 (7月12日まで)	6,000	3,000	9,000	6,000
通常登録 (7月13日以降)	7,000	4,000	10,000	7,000
懇親会参加費	4,000	2,000	5,000	3,000

振り込みは、下記ゆうちょ銀行口座をお願いします。

口座記号番号: 00290-5-101270

口座名称: 日本認知科学会第30回大会

※他行から上記ゆうちょ銀行口座への振込みの場合

店名 (店番): ○二九 (ゼロニキュウ) 店 (029)

預金種目: 当座, 口座番号: 0101270

なお、大学・企業等に属する方が公費で支払い手続きをされる場合、会員名がわからずに困ることがあります。どなたの分の参加費かを特定するのに手間がかかりますので、所属組織経由で振込をされる場合は、次の情報を「大会参加申し込み時に」実行委員会 jcss2013@jcss.gr.jp 宛にご連絡ください。

- ・いつ, どの銀行から, 誰の名義で振り込んだか (当該組織の会計担当者・職名になることがあります)

複数名の参加費をまとめて振り込む場合も同様に、明細をお知らせください。領収書は、大会当日の配布資料とともに受付でお渡しします。

3. 大会発表論文集原稿

発表の採択後、2種類の原稿をご用意ください。

- (1) 仕上がり10ページ以内の発表論文集用完成原稿
- (2) パンフレット用の200字の要旨

2013年7月1日(月)(締切厳守)までに、大会ホームページに完成原稿をPDFでご送付ください。書式サンプルを大会ホームページに掲載しております。PDFが作成できない場合は、上記期日消印有効で下記まで印刷された原稿を、宛名面に、「発表論文集原稿」と記入のうえ、御郵送ください。

〒153-8902

東京都目黒区駒場3-8-1

東京大学大学院 総合文化研究科

広域システム科学系

JCSS2013 プログラム委員会 開 一夫

なお、発表論文集は電子版でのみ発行します。またページ数の上限を10ページとしていますが、けっしてページ数を増やすことを推奨するものではありません。読者の利益を念頭に、図表等を有効に活用しながら明瞭・簡潔な原稿執筆を心がけてください。

4. 発表論文の公開 について

発表論文は事前(おおむね大会1週間前、そして大会後当分の間)にwebで大会参加予定者に公開する予定です。論文集の発行日は大会初日の一週間前とします。論文集発行日は公知日となります。特許申請等でご希望があれば事前にお伝えください。

5. 大会発表賞

すぐれた若手発表者に対して大会若手発表賞(口頭発表・ポスター発表)の授与を予定しています。大会若手発表賞の受賞資格者は以下の条件を全て備えている方です。

条件1: 本学会会員(正会員、学生会員)であること。

条件2: 生年が1980年以降であること。

条件3: 所定の大会発表手続きを完了していること。

条件4: 第1発表者であること。

6. 問い合わせ先

大会関係のお問い合わせは、以下までお願いします。

大会運営一般に関して: jcss2013@jcss.gr.jp

大会発表、査読、プログラム一般に関して:

jcss2013-pc@jcss.gr.jp